

# 七尾仏壇

## 歴史

応永16年(1409年)能登の守護職として入国した畠山氏は、京都文化を積極的に取り入れ、指物、彫刻、蒔絵、製箔などの工芸の振興を図った。その後、前田利家の七尾入城と共に多数の職人が移り住み、仏壇の製作のみならず神社・仏閣の再興に活躍したと言われている。元和2年(1616年)の七尾の地図には、塗師[ぬし]町、木町、大工町等



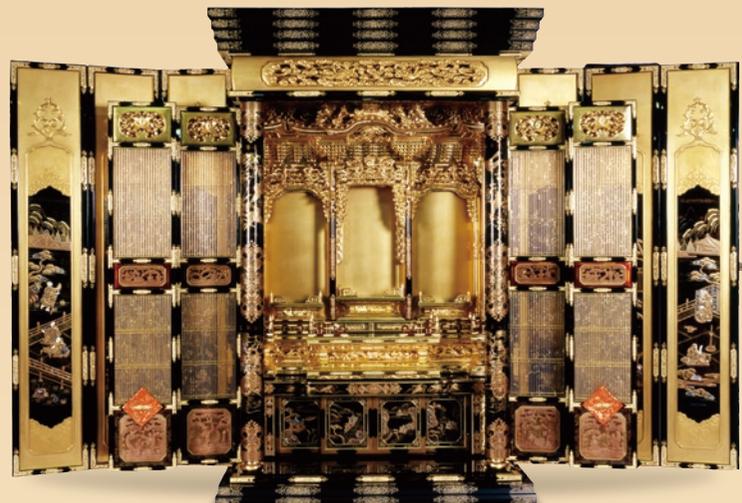
の名が見られる。七尾では、仏壇店のことを「ぬしや」と呼ぶことから、このころから仏壇製造業者が定着していたことがうかがえる。

## 特色

七尾仏壇は、長い歴史をもつ七尾の文化を表している芸術品です。現代では数少ない完全な職人による温かみのある手作り仏壇で、堅牢で荘厳華麗な作りです。

材料には、狂いが少なく長持ちする能登アテ、能登ヒバの木が使われます。製品は状態の悪い道での運搬に耐えられるように、堅牢に仕上げてあります。本体はすべてほぞ組で、塗り加工は「錆(さび)仕立」で上質な漆を使用し、金具はすべて手打ちで仕上げられています。

多くの工程が手作りの仏壇でほぞ組、堅地塗りなので、数回の分解修理に耐えることができます。



# 七尾佛壇

## 歴史與特色

15世紀、統管能登地區的田山氏積極地引進京都文化，致力於振興組裝木工、雕刻、泥金畫、制箔等工藝。其後，加賀藩主前田利家在16世紀入住七尾城，眾多能工巧匠也移住七尾，不僅在佛壇的製作上，也同時為神社、寺院的再興作出了貢獻。

佛壇の木材選用不翹稜、耐久性強的能登絲柏木。七尾佛壇不使用釘子，改用“卯榫組合”方式組裝而成，再施以防鏽塗漆加工。由人數稀少的巧匠制出的七尾佛壇擁有悠久的歷史，是七尾文化的代表性藝術品。

## 情報 資訊

主な生産地(主要産地)	七尾市(七尾市)・中能登町(中能登町)
主な製品名(主要産品名)	仏壇、神輿(佛壇、神輿)
主な生産者(主要生産者)	七尾仏壇協同組合(七尾佛壇協同組合) 〒926-0802 七尾市三島町70-1(七尾市三島町70-1) TEL (0767)54-8888 FAX (0767)54-8811